

「よい仕事おこし」と神奈川大協定 ビジネスの創出狙い

地方創生を目的に全国の信用金庫でつくる「よい仕事おこしフェア実行委員会」と神奈川大学（横浜市神奈川区）は17日、地域経済の活性化や課題解決を目的とした包括連携協定を結んだ。信金の取引先企業の事業拡大などで、神奈川大の持つ先端技術やノウハウを活用し、新ビジネスの創出につなげる狙い。

同実行委はこれまで地方自治体や新聞社と包括協定を結んできたが、大学と連携するのは初めて。協定では、インターネット上で企業同士を結び付ける「よい仕事おこしネットワーク」を活用。同ネットワークに登録された情報を、専属のコーディネーターを介して神奈川大に提供すること

産学連携に関する



協定書に署名した城南信用金庫の川本恭治理事長（右）と神奈川大学の牧内良平理事長
（東京都品川区）

で、産学連携による新製品開発や販路拡大を後押しする。

17日の調印式で、実行委事務局を務める城南信用金庫（東京都品川区）の川本恭治理事長は「地域の垣根を越えて課題解決に当たりたい」と述べ、神奈川大の牧内良平理事長は「大学の知的財産を地方創生に役立てたい」と話した。

（鈴木 美帆子）